

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策 【2021-2022】競技会運営ガイドライン

青森県アイスホッケー連盟

【2021.09.20】

1. 基本的事項

- 本ガイドラインは、現時点での状況を勘案し定めるものであり、今後、国内外の感染症発生状況、政府及び地方公共団体からの非常事態宣言等の発令や協力要請等、また(公財)日本スポーツ協会、(公財)日本アイスホッケー連盟、ほか統括団体からの通達・ガイドライン等を踏まえ、当連盟において随時、競技会の開催の可否・本ガイドラインの改定、競技会の運営方法について適宜検討する。
- 各カテゴリー事務局においては、選手、スタッフ、チーム関係者、役員の感染、あるいは所管保健所の疫学的調査によって濃厚接触者となっていることを確認した場合等は、速やかに当連盟担当副理事長（小笠原）まで連絡のうえ、対応を協議すること。
なお、個人情報の保護については必要な配慮が厳重になされる。

2. 参加制限等

- 当連盟主催、主管の競技会については、感染拡大防止の観点から当面の間、各チームの選手、スタッフのエントリー数を以下のとおりとする。
 - ・選手：22名以内
 - ・ベンチ入りするスタッフ：4名以内
- 選手、スタッフ本人の感染が確認されている場合、所管保健所の疫学的調査において感染が疑い感染確認検査中の場合、感染者の濃厚接触者として所管保健所の健康観察の対象となっている場合には、当該選手、スタッフの競技会への参加・競技会場への入場を認めない。
- 競技会開始日から過去14日以内に政府からの入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある選手、スタッフの競技会への参加・競技会場への入場を認めない。
- 何らかの症状・体調不良（37.5度以上の発熱、咳、倦怠感、味覚・嗅覚異常等）がある選手、スタッフの参加・競技会場への入場は認めない。

- 参加選手、スタッフ、大会役員は、競技会開始日14日前からの健康観察を行い、別紙様式1「体調管理チェックシート」に記録する。カテゴリー事務局においては競技会開始日に全参加選手、スタッフ、大会役員のチェックシートを提出させる。
- 上記に加え競技会期間中、チームに対し試合ごとに別紙様式2「ゲーム当日体調チェック観察票」を提出させる。
- 児童・生徒が参加対象となっている競技会においては、シーズン中の通常の活動の他、別途競技会ごとに参加について保護者の承諾を得ることを推奨する。

※選手・スタッフ個々の参加制限について疑義がある場合は、速やかに担当副理事長（小笠原）に報告する。感染（疑い含む）・検査の時期等により多様な状況が想定されるため、選手・スタッフ及び所属チーム自体の参加の可否、競技会自体の開催・継続・中止も含め担当副理事長とカテゴリー事務局が協議のうえ決定する。

3. 参加選手・スタッフ・チームに対する措置

○基本的な感染防止措置の徹底

- ・入退館時の際のマスク着用、手洗いや手指消毒液による消毒を指導する。非接触型体温計・消毒液等については、各個人で準備し対応出来ないことを念頭に、各カテゴリー・チームにて準備をする。
- ・大きな声での会話、応援、声出し等を制限する。
- ・プレーヤーズベンチ内のスタッフ・役員はマスク着用を義務付ける。
- ・ベンチ入りしないメンバーはマスクを着用し十分な距離をとって観戦する。
- ・ボトルやタオルなどのチーム共有物は、チーム管理から個人所有の物に変更する。
- ・ホワイトボードやマーカーについては、個人所有の物を使用する。
- ・栄養補助食品、副食などは大皿での提供は避け、一人分を小分けに取り分けて提供する。
- ・氷上に唾や痰をはくこと、飲みきれなかったスポーツドリンク等を氷上に廃棄することは厳禁とする。

○レフェリー委員会との調整事項

- ・ゲーム開始時の用具チェック・挨拶、ホームチーム・ビジターチームの決定方法、プレーデット時のパックの取り扱いその他、既存のルールに規定がない注意事項についてあらかじめ

レフェリー委員会と調整・確認のうえ、各チームに通達し徹底を図る。

4. 競技会場

○ゾーニング

- ・選手・スタッフ、オン・オフアイスオフィシャル、有観客の場合は観客等それぞれの動線が交錯しないよう競技会場のゾーニングを設定する。ゲーム前のウォーミングアップ時にもチームごとに実施場所を事前設定する等の措置を講じる。

○選手控室、プレーヤーズベンチの使用にあたっての注意事項

- ・控室は1チーム2室利用など可能な限り「蜜」を回避した利用形態を検討し、長時間使用のミーティングは行わない、ゴミは個人で持ち帰り自宅にて処分をする、控室使用中はドアを開放する、使用中はこまめに消毒を行う等、感染拡大のリスクに対応するあらゆる措置をとる。

※ゾーニング、控室やプレーヤーズベンチの使用、設定については、競技会場管理者が定めた注意事項を遵守し、清掃・消毒の実施方法等についてもあらかじめ管理者と協議しておくこと。同日にカテゴリーをまたいだ競技会場の使用がある場合には、あらかじめカテゴリー事務局、競技会場管理者で手順を調整しておくこと。別添会場図を参照。

5. オフアイス・オフィシャル

○従事制限

- ・必要最低限の人員で運営することとし、原則として同一カテゴリー内関係者で設定する。
- ・出場選手、スタッフの取り扱いに準ずる。カテゴリー事務局においてはオフアイス・オフィシャル従事者（チーム）に別紙様式2「ゲーム当日体調チェック観察票」を提出させる。

○基本的な感染防止措置の徹底

- ・入館退館時の際の手洗いや手指消毒液による消毒を行う。
- ・従事する際はマスクの着用を義務付ける。大会本部などは一部屋あたりの在室人数を制限し（弁当等、食事の提供がある場合には特に）、窓の開放や機械換気により換気を行うとともに室内のデスク、イス、ホワイトボード、マーカー、ハンガー、直接手の触れる箇所のコまめな消毒を行う。
- ・オフィシャルボックスの在室人数を最小にとどめるための工夫をする。ソーシャルディスタンスの観点から1m空けて座るよう努める。（例 オフィシャル内はアナウンサー、タイム

キーパー、ペナルティータイムキーパーにする。他は、別の場所に設置する。ミュージックは中止しても良い。) 各種スイッチ類など直接手の触れる箇所のごまめな消毒を行う。

- ・得点者の伝達方法など、レフェリーとのコミュニケーションが必要な際は、十分な距離を取ったうえで行うほか、紙やホワイトボードでの伝達を使い飛沫対応を行う。
- ・ペナルティーボックスアテンダントは、ペナルティーボックス外で待機し、扉の開閉時のみペナルティーボックスへ入室する。得点後の選手の退室時は選手自ら扉を開け、選手退出後にペナルティーボックスアテンダントが扉を閉める等、選手との接触を最低限にする。

6. 観客、送迎保護者、報道関係者に対する措置

- 無観客での開催を推奨する。カテゴリー事務局においては、無観客での開催を検討したうえで、観客の入場を可とする場合には、事前登録制や人数制限等の措置を必ずとることとし、以下に例示する具体的な運用について担当副理事長（小笠原）に事前に報告・協議する。
- ・ゲーム毎に観戦者名簿を作成する。カテゴリー事務局においては、事前に参加チームに別紙様式3「ゲーム当日観戦者一覧」を提出させる。
- ・受付を設置し（感染予防措置を十分にとること）、入場時の名簿チェック、検温等を実施するとともに、マスク着用の義務付け、手指消毒、大声での応援の制限、観客相互の距離確保等、各競技会場の注意事項・遵守事項を踏まえた感染防止のための協力を観客に対して要請を徹底する。
- 無観客で実施、一般観客の入場を制限する場合は、競技会場入り口にその旨掲示する。
- 主に若年層選手で、送迎や、用具装脱着等に保護者の補助が必要な場合には極力他選手等との接触を抑える措置を講じ、準備終了後もしくは日程終了後は速やかに施設を退出する。
- 報道関係者については別紙様式4「報道関係者一覧」により、ゲーム毎に所属、氏名を記録するとともに検温を実施し、マスク着用等観客に対するものと同様に感染防止のための協力を要請する。

7. セレモニー・会議ほか

- 開会式、閉会式（表彰式）
 - ・実施しない、簡略化する等の検討を行う。

○役員会議、代表者会議等

- ・書面会議やリモート参加の導入などの措置を検討する。

8. 体調管理チェックシート、観戦者名簿等の取扱い

○個人情報の保護に十分配慮のうえ、カテゴリー事務局において保管する（競技会終了後 30 日間。処分する際はシュレッダー等によること。）とともに、以下のとおり提出する。

- ・別紙様式 1 「新型コロナウイルス感染症についての体調管理チェックシート」は競技会終了後、PDF ファイル化するなどのうえゲーム終了後 2 4 時間以内に、次のアドレス aomori.ihf.corona@gmail.com まで送信する。件名については、大会名とすること。
- ・様式 2 「ゲーム当日体調チェック観察票」、様式 3 「ゲーム当日観戦者一覧」、様式 4 「報道関係者一覧」は、PDF ファイル化するなどのうえゲーム終了後 2 4 時間以内に、ゲームシートと合わせて次のアドレス aomori.ihf.corona@gmail.com まで送信する。件名については、大会名・対戦カードとすること。